

聖年のロゴマーク

ロゴは、地球の四隅から来た全人類を表す4つの様式化された人物を示しています。

彼らは、すべての人々を団結させるべき連帯と友愛を示すために、互いに抱き合います。正面の人物は十字架を握っています。それは、この主役が抱く信仰のしるしであるだけでなく、決して放棄することのできない希望のしるしでもあります。

なぜなら、私たちは常に、特に最も必要な瞬間に希望を必要としているからです。

数字の下には荒波があり、穏やかな海では人生の巡礼が必ずしもスムーズに進むとは限らないことを象徴しています。多くの場合、日常生活の状況や広い世界の出来事は、より大きな希望への呼びかけを必要とします。だからこそ、十字架の下部は細長く伸ばされ、波の中に降ろされる錨の形に変わっていることに特に注意を払うべきです。錨は希望の象徴としてよく知られています。海自用語で「希望の錨」とは、嵐の際に船を安定させるために緊急操船に關与する船舶が使用する予備の錨を指します。この画像は、巡礼者の旅を個人的な事業としてではなく、むしろ共同体的なものとして示しており、十字架にますます近づくダイナミズムによって特徴付けられていることは注目に値します。

ロゴの十字架は決して静的ではありませんが、動的でもあります。それは人間に向かって屈み、人間を放っておくのではなく、その存在の確実性と希望の保証を提供するために彼らに手を差し伸べます。

ロゴの下部には、2025年のジュビリーイヤーのモットーである「Peregrinantes in Spem 希望の巡礼者」が緑の文字で表されています。



(2025 聖年公式ページより)